

2010/9/17

柏の景気情報（平成22年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年8月分）

○ 調査期間 : 平成22年8月23日 ~ 8月26日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	71	66.4%
建設	19	14	73.7%
製造	23	14	60.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年8月の調査結果のポイント】

《業況DIのマイナス幅ふたたび拡大》

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.0(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅が▲8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△21.4(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲30.7)、建設業▲50.0(同▲42.8)、卸小売業▲58.6(同▲51.8)である。

【建設業】からは、「新分野への転換を模索しようとしているが、それまで各企業は持ち堪えられるのでしょうか」(土木工事業)、「工事単価が下げられてきている」(管工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「電気部品の納期遅れの影響が回復しつつある。一時的な短納期受注は出てくるが継続的な仕事に結ぶ量はない」(その他の機械・同部分品製造業)、という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「当月については売上高が久しぶりに前年同月を上回る事となった。入店客数についても前年確保には到らないものの増加傾向が続いている。好調の要因として、猛暑による日傘帽子他の雑貨の伸長が目立った」(百貨店)、「売上高増加に向けて集客力の高いショッップの誘致を進めている。今後は雑貨を中心としたショッップがオープン予定」(百貨店)、「7月度は学期末の売上増により増益でしたが、8月は猛暑の為に昼間の客足が例年より少なく、小物の販売が期待できない。子ども手当の支給効果は期待できない」(その他の飲食料品小売業)、売上高や猛暑の影響に関してなど、多岐にわたる内容のコメントが上がってきた

◎猛暑の影響

各業種から、「猛暑の影響で仕事の効率が下がった。先行き3カ月の業況は目安はまったくつかめない」(電気工事業)、「例年にない暑さで売れるものが全く違う。昨年のデータが意味をなさないので、自分たちで暑いときでも食べたくなるような提案をしていかなければならない」(各種食料品小売業)、「連日の猛暑の影響により青果物不足により高騰している状況。打撃をうけています。一部野菜に入荷減単価高の動きがあるが総体的に取扱高が減少」(食料・飲料卸売業)、「厳しい暑さが続き価格の安い軽衣料、夏物雑貨が売れたが、店頭のお秋物商品に動きが無く、暑い夏の反動が怖い」(その他の各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「9月になると暖房機の商戦が始まりますが、この暑さが続く苦戦が予想され、売上減少になりそうです。他の対策を考え中です」(管工事業)、「猛暑で売上減少」(菓子・パン小売業)、「企業宴会(会議セミナー)の減少、宿泊の稼働は上がるが一室単位は減少し若干の売上減少となる」(ホテル)など、さまざまな声が上がってきた。

◎エコカー補助金・減税

卸小売、サービス業から、「エコカー補助金が9月まで出るため販売が増加しています」(自動車小売業)、「エコカー減税の駆け込み需要の影響等でキー局のスポットが活況に。ローカルへの好影響が一応期待されるが、よい目を見るのはキー局のみというのがこれまでの例でもある」(民間放送業)など、エコカー補助金や減税に関するコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	△21.4	▲58.6	▲42.8
見通し	▲30.9	▲28.5	▲7.1	▲51.7	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.0(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅が▲8.0ポイント拡大した。

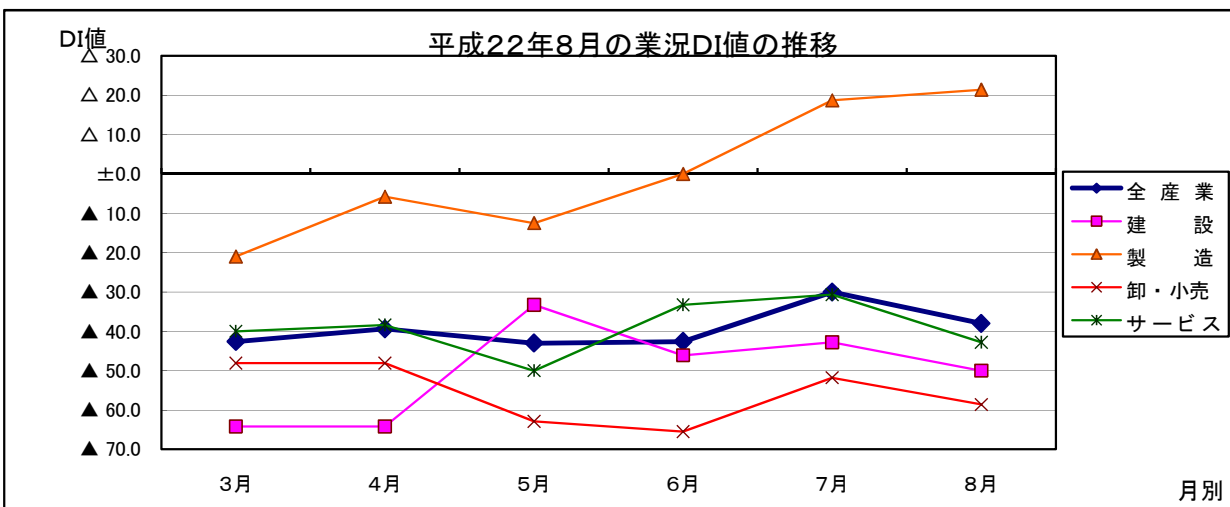
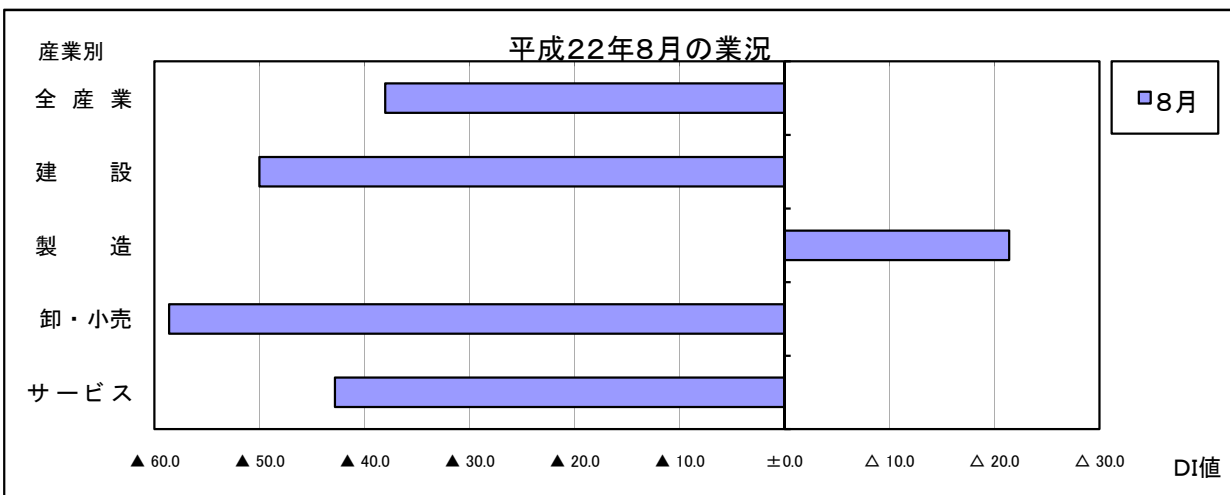
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△21.4(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲30.7)、建設業▲50.0(同▲42.8)、卸小売業▲58.6(同▲51.8)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.9(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が▲13.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲23.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.1(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.7(同▲25.9)、建設業▲28.5(同▲21.4)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲25.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲42.6	▲39.4	▲43.0	▲42.6	▲30.0	▲38.0	▲30.9(▲17.1)
建設	▲64.2	▲64.2	▲33.3	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲28.5(▲21.4)
製造	▲21.0	▲5.8	▲12.5	±0.0	△18.7	△21.4	▲7.1(△6.2)
卸・小売	▲48.1	▲48.1	▲62.9	▲65.5	▲51.8	▲58.6	▲51.7(▲25.9)
サービス	▲40.0	▲38.4	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲42.8	▲14.2(▲23.0)



【平成22年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.7(前月水準▲37.1)となり、マイナス幅が△4.7ポイント縮小した。

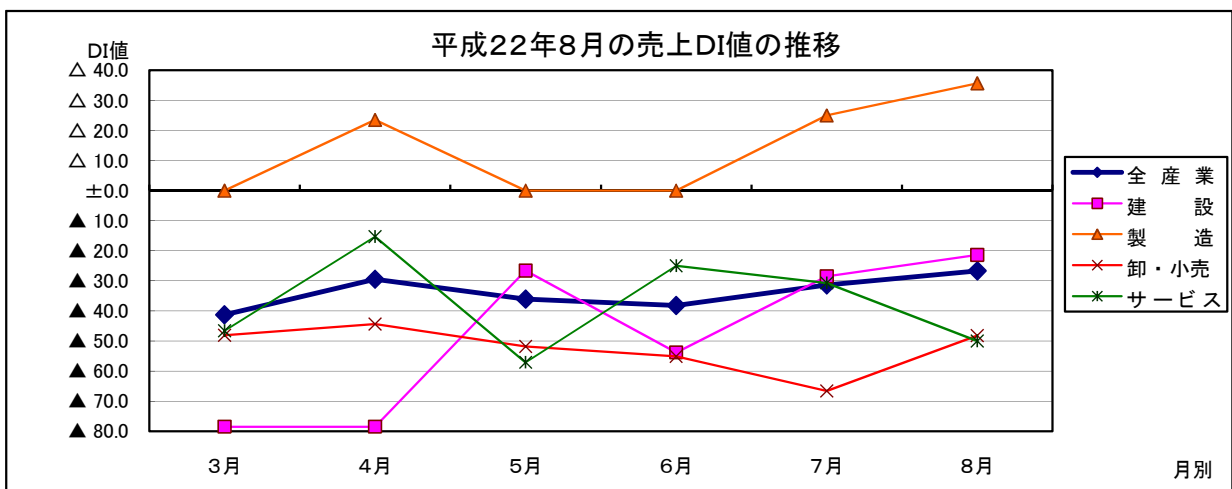
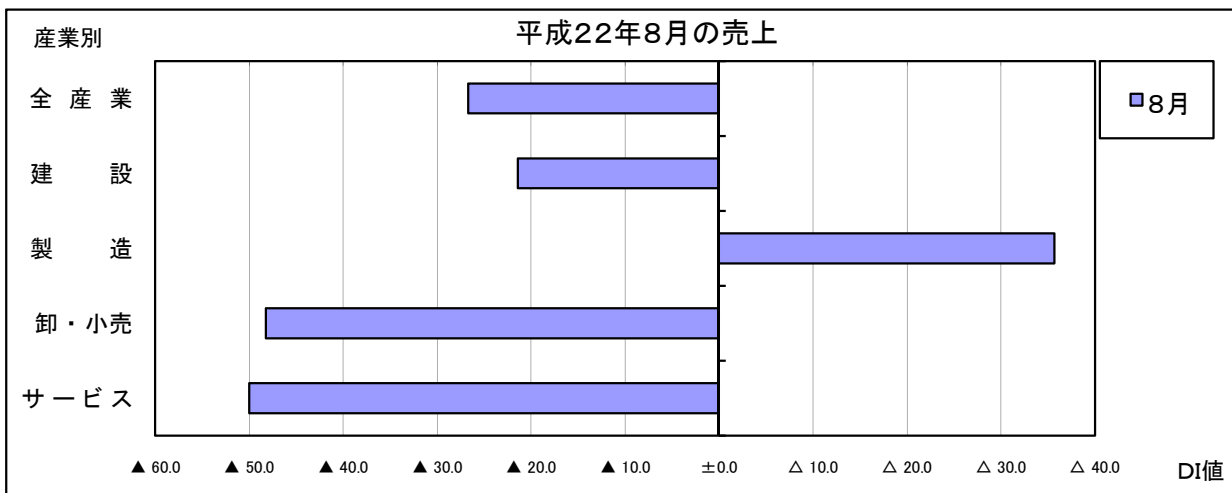
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△35.7(同△25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.2(同▲66.6)、建設業▲21.4(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲50.0(同▲30.7)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.5(前月水準▲21.4)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲30.7)、建設業▲28.5(同▲35.7)、卸小売業▲27.5(同▲29.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.1(同△12.5)である。

平成22年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲ 41.3	▲ 29.5	▲ 36.1	▲ 38.2	▲ 31.4	▲ 26.7	▲ 22.5 (▲ 21.4)
建設	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 26.6	▲ 53.8	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 28.5 (▲ 35.7)
製造	±0.0	△ 23.5	±0.0	±0.0	△ 25.0	△ 35.7	▲ 7.1 (△ 12.5)
卸・小売	▲ 48.1	▲ 44.4	▲ 51.8	▲ 55.1	▲ 66.6	▲ 48.2	▲ 27.5 (▲ 29.6)
サービス	▲ 46.6	▲ 15.3	▲ 57.1	▲ 25.0	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 21.4 (▲ 30.7)



【平成22年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲49.2(前月水準▲37.1)となり、マイナス幅が▲12.1ポイント拡大した。

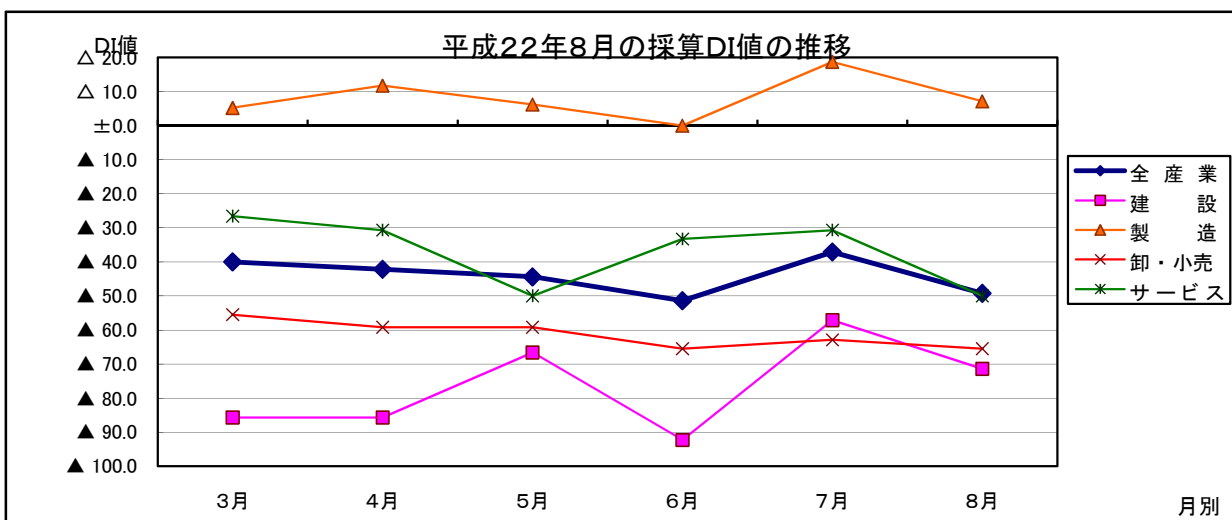
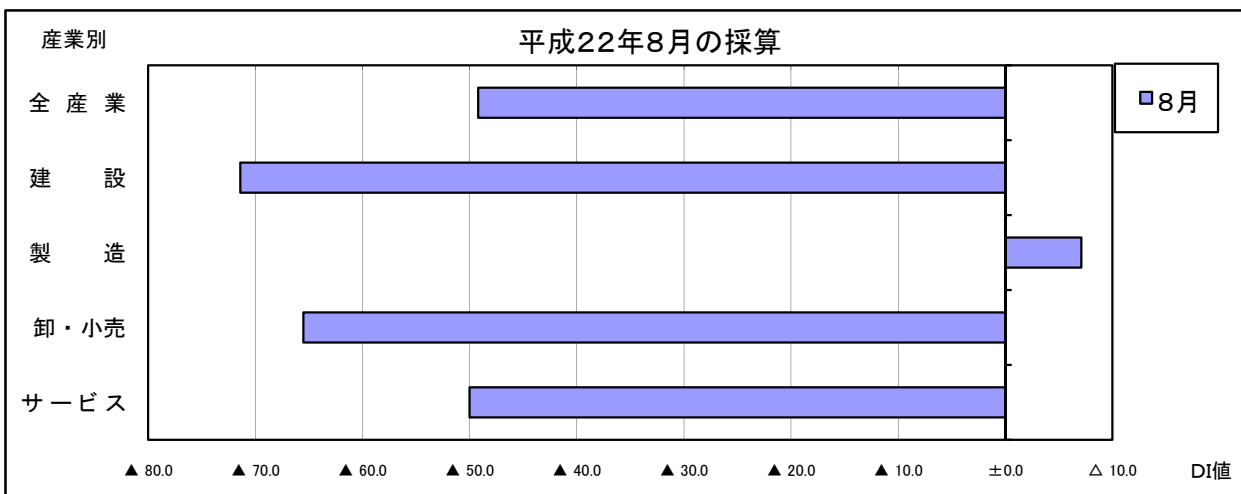
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△7.1(同△18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲30.7)、建設業▲71.4(同▲57.1)、卸小売業▲65.5(同▲62.9)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.8(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が▲9.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.1(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲29.6)、建設業▲57.1(同▲50.0)、サービス業▲28.5(同▲23.0)である。

平成22年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲40.0	▲42.2	▲44.4	▲51.4	▲37.1	▲49.2	▲33.8(▲24.2)
建設	▲85.7	▲85.7	▲66.6	▲92.3	▲57.1	▲71.4	▲57.1(▲50.0)
製造	△5.2	△11.7	△6.2	±0.0	△18.7	△7.1	▲7.1(△6.2)
卸・小売	▲55.5	▲59.2	▲59.2	▲65.5	▲62.9	▲65.5	▲37.9(▲29.6)
サービス	▲26.6	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲50.0	▲28.5(▲23.0)



【平成22年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.7(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が▲11.0ポイント拡大した。

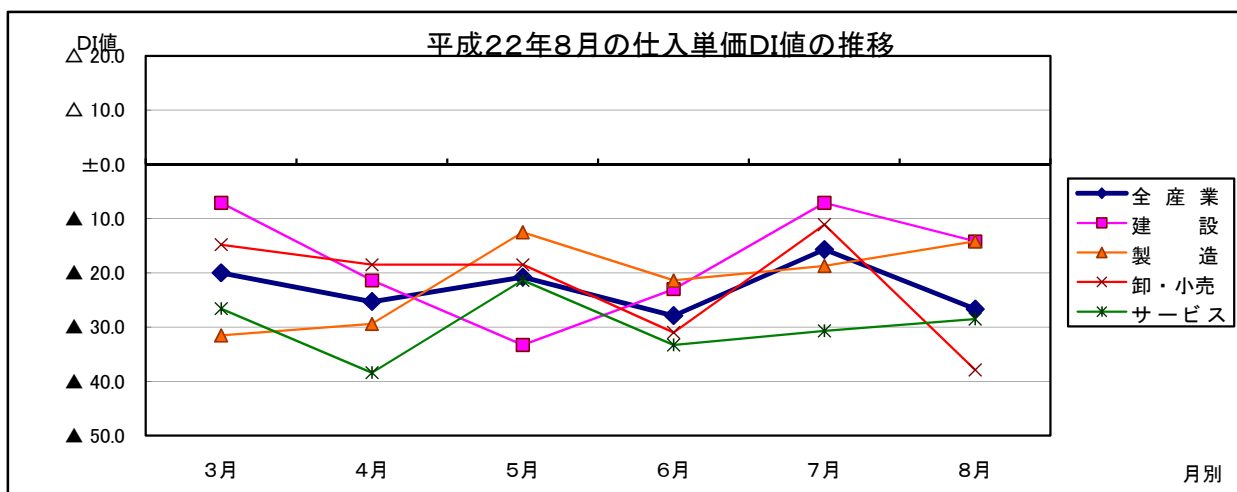
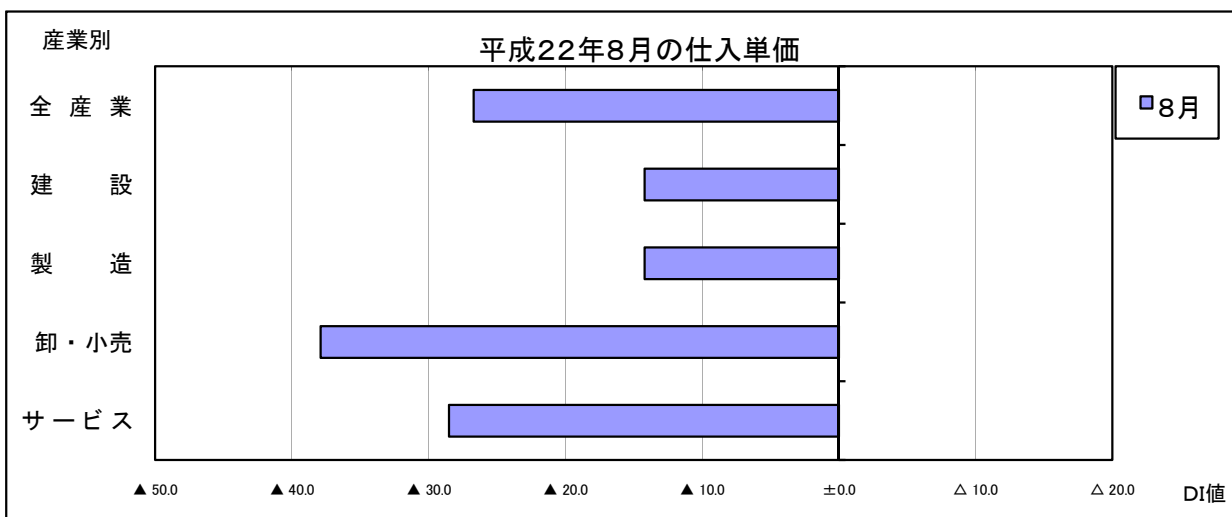
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲18.7)、サービス業▲28.5(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲11.1)、建設業▲14.2(同▲7.1)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲26.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.1(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲18.7)、サービス業▲28.5(同▲38.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.5(同▲3.7)、建設業▲14.2(同▲7.1)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲23.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲20.0	▲25.3	▲20.8	▲27.9	▲15.7	▲26.7	▲21.1(▲14.2)
建設	▲7.1	▲21.4	▲33.3	▲23.0	▲7.1	▲14.2	▲14.2(▲7.1)
製造	▲31.5	▲29.4	▲12.5	▲21.4	▲18.7	▲14.2	▲7.1(▲18.7)
卸・小売	▲14.8	▲18.5	▲18.5	▲31.0	▲11.1	▲37.9	▲27.5(▲3.7)
サービス	▲26.6	▲38.4	▲21.4	▲33.3	▲30.7	▲28.5	▲28.5(▲38.4)



【平成22年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.0(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が△1.5ポイント縮小した。

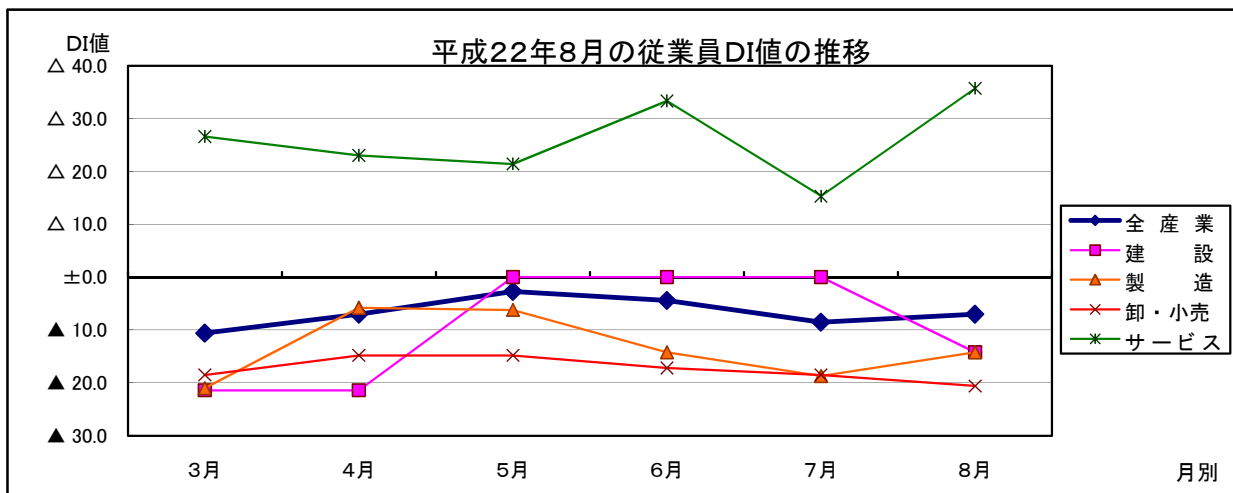
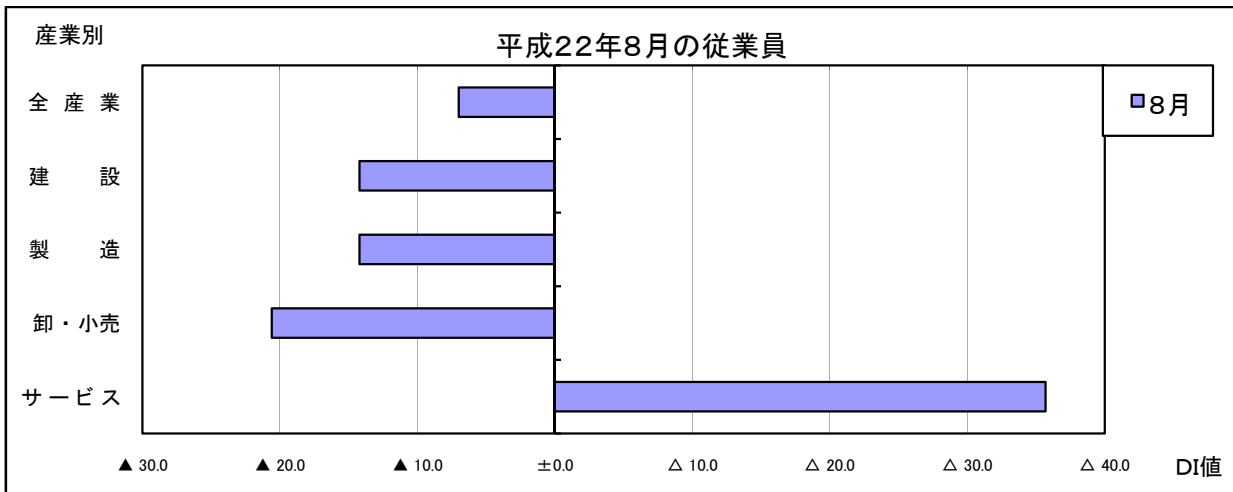
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△35.7(同△15.3)であり、プラス幅が△20.4ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲14.2(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同±0.0)、卸小売業▲20.6(同▲18.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△14.2(同△7.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.2(同▲18.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同±0.0)、製造業▲14.2(同▲±12.5)である。

平成22年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲10.6	▲7.0	▲2.7	▲4.4	▲8.5	▲7.0	▲9.8(▲8.5)
建設	▲21.4	▲21.4	±0.0	±0.0	±0.0	▲14.2	▲14.2(±0.0)
製造	▲21.0	▲5.8	▲6.2	▲14.2	▲18.7	▲14.2	▲14.2(▲12.5)
卸・小売	▲18.5	▲14.8	▲14.8	▲17.2	▲18.5	▲20.6	▲17.2(▲18.5)
サービス	△26.6	△23.0	△21.4	△33.3	△15.3	△35.7	△14.2(△7.6)



【平成22年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が▲5.3ポイント拡大した。

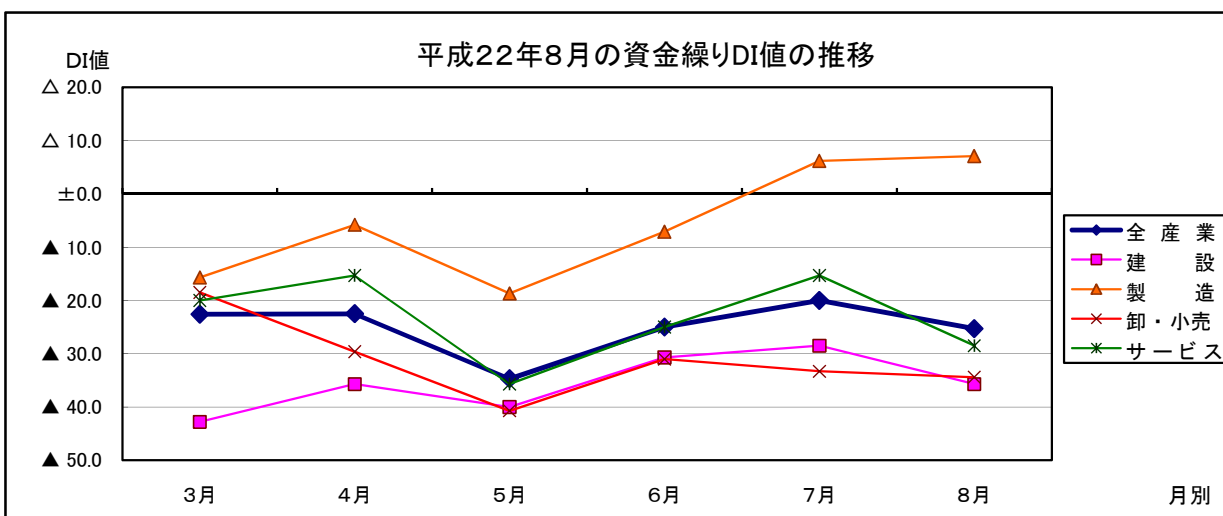
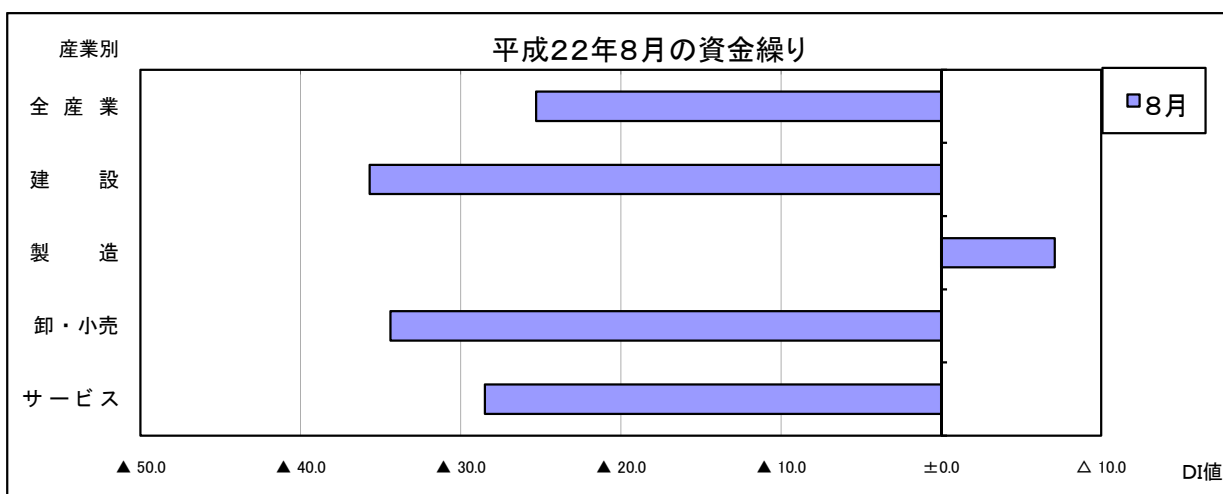
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△7.1(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲15.3)、建設業▲35.7(同▲28.5)、卸小売業▲34.4(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.9(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲23.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.4(同▲7.1)、製造業▲14.2(同▲6.2)、卸小売業▲17.2(同▲14.8)である。

平成22年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲22.6	▲22.5	▲34.7	▲25.0	▲20.0	▲25.3	▲16.9(▲12.8)
建設	▲42.8	▲35.7	▲40.0	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲21.4(▲7.1)
製造	▲15.7	▲5.8	▲18.7	▲7.1	△6.2	△7.1	▲14.2(▲6.2)
卸・小売	▲18.5	▲29.6	▲40.7	▲31.0	▲33.3	▲34.4	▲17.2(▲14.8)
サービス	▲20.0	▲15.3	▲35.7	▲25.0	▲15.3	▲28.5	▲14.2(▲23.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.7	▲ 22.5	▲ 49.2	▲ 33.8	▲ 26.7	▲ 21.1	▲ 7.0	▲ 9.8
建設	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 71.4	▲ 57.1	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 14.2
製造	△ 35.7	▲ 7.1	△ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 14.2
卸・小売	▲ 48.2	▲ 27.5	▲ 65.5	▲ 37.9	▲ 37.9	▲ 27.5	▲ 20.6	▲ 17.2
サービス	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 28.5	▲ 28.5	△ 35.7	△ 14.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 38.0	▲ 30.9	▲ 25.3	▲ 16.9
建設	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 21.4
製造	△ 21.4	▲ 7.1	△ 7.1	▲ 14.2
卸・小売	▲ 58.6	▲ 51.7	▲ 34.4	▲ 17.2
サービス	▲ 42.8	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 14.2

【平成22年8月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	新分野への転換を模索しようとしているが、それまで各企業は持ち堪えられるのでしょうか	新分野模索	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	工事単価が下げられてきている	工事単価	管工事業(さく井を除く)
	9月になると暖房機の商戦が始まりますが、この暑さが続くか苦戦が予想され、売上減少になりそうです。他の対策を考え中です。	猛暑の影響 暖房機商戦 売上減少	管工事業(さく井を除く)
製造	猛暑の影響で仕事の効率が下がった。先行き3か月の業況は目安はまったくつかめない	猛暑の影響 先行き不透明	電気工事業
	電気部品の納期遅れの影響が回復しつつある。一時的な短納期受注は出てくるが継続的な仕事に結び量はない	納期遅れ回復 短期受注 受注の維持	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	当月については売上高が久しぶりに前年同月を上回る事となった。入店客数についても前年確保には到らないものの増加傾向が続いている。好調の要因として、猛暑による日傘帽子他の雑貨の伸長が目立った。	売上高上昇 客数増加傾向 猛暑の影響	百貨店
	売上高増加に向けて集客力の高いショップの誘致を進めている。今後は雑貨を中心としたショップがオープン予定。	集客力 店舗誘致	百貨店
	例年にない暑さで売れるものが全く違う。昨年のデータが意味をなさないので、自分たちで暑いときでも食べたいような提案をしていかなければ	猛暑の影響 売れ筋商品	各種食料品小売業
	連日の猛暑の影響により青果物不足により高騰している状況。打撃をうけています。一部野菜に入荷減単価高の動きがあるが総体的に取扱高が減少。	猛暑の影響 青果物不足 取扱高減少	食料・飲料卸売業
	猛暑で売上減少	猛暑の影響 売上減少	菓子・パン小売業
	7月度は学期末の売上増により増益でしたが、8月は猛暑の為に昼間の客足が例年より少なく、小物の販売が期待できない。子ども手当の支給効果は期待できない。	猛暑の影響 来店客数減少 子ども手当	その他の飲食料品小売業
	補助金が9月まで出るため販売が増加しています	エコカー補助金	自動車小売業
	為替の円高基調で石油製品全般に当面軟化の見通しがついた。新規採用した社員に刺激され社内に活気が出てきた。多少なりとも増販傾向であり冬商戦に向けて景況改善できるよう頑張りたい	円高 冬商戦	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	デジタル化書籍の問題あり。特に教科書がデジタル化されると影響は計り知れない。	デジタル化書籍 教科書への影響	書籍・文房具小売業
	厳しい暑さが続き価格の安い軽衣料、夏物雑貨が売れたが、店頭の商品に動きが無く、暑い夏の反動が怖い	猛暑の影響 夏物好調 秋物不振	その他の各種商品小売業(従業員が常時50人未満のもの)
サービス	企業宴会(会議セミナー)の減少、宿泊の稼働は上がるが一室単位は減少し若干の売上減少となる	宴会減少 売上減少	ホテル
	エコカー減税の駆け込み需要の影響等でキー局のスポットが活況に。ローカルへの好影響が一応期待されるが、よい目を見るのはキー局のみというのがこれまでの例でもある	エコカー補助金 駆け込み需要	民間放送業(有線放送業を除く)

◎猛暑の影響

- ・ 猛暑の影響で仕事の効率が下がった。先行き3カ月の業況は目安はまったくつかめない 電気工事業
- ・ 例年にない暑さで売れるものが全く違う。去年のデータが意味をなさないの
で、自分たちで暑いときでも食べたくなるような提案をしていかなければなら 各種食料品小売業
- ・ 連日の猛暑の影響により青果物不足により高騰している状況。打撃を受けて
います。一部野菜に入荷減単価高の動きがあるが総体的に取扱高が減少。 食料・飲料卸売業
- ・ 厳しい暑さが続き価格の安い軽衣料、夏物雑貨が売れたが、店頭の秋物商 品に動きが無く、暑い夏の反動が怖い その他の各種商品小売業

◎売上減少

- ・ 9月になると暖房機の商戦が始まりますが、この暑さが続くと苦戦が予想さ
れ、売上減少になりそうです。他の対策を考え中です。 管工事業
- ・ 猛暑で売上減少 菓子・パン小売業
- ・ 企業宴会(会議セミナー)の減少、宿泊の稼働は上がるが一室単位は減少し
若干の売上減少となる ホテル

◎エコカー補助金・減税

- ・ 補助金が9月まで出るため販売が増加しています 自動車小売業
- ・ エコカー減税の駆け込み需要の影響等でキー局のスポットが活況に。ローカ
ルへの好影響が一応期待されるが、よい目を見るのはキー局のみというの
がこれまでの例でもある 民間放送業











平成22年8月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.0に対し、「CCI-LOBO」が▲37.7で、柏の方がマイナス幅が0.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.7に対し、「CCI-LOBO」が▲30.2で、柏の方がマイナス幅が3.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲49.2に対し、「CCI-LOBO」が▲34.8で、柏のほうがマイナス幅が14.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.7に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で、柏の方がマイナス幅が7.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.0に対し、「CCI-LOBO」が▲10.1で、柏の方がマイナス幅が3.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲23.2で、柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。











平成22年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較




景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 38.0	 50.0	 21.4	 58.6	 42.8
CCI LOBO	 37.7	 56.1	 20.0	 43.9	 38.8


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.7	 21.4	 35.7	 48.2	 50.0
CCI LOBO	 30.2	 47.7	 11.3	 35.4	 31.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 49.2	 71.4	 7.1	 65.5	 50.0
CCI LOBO	 34.8	 53.0	 23.1	 35.3	 36.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.7	 14.2	 14.2	 37.9	 28.5
CCI LOBO	 19.1	 26.6	 24.6	 10.2	 19.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 7.0	 14.2	 14.2	 20.6	 35.7
CCI LOBO	 10.1	 25.5	 9.9	 5.5	 5.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 35.7	 7.1	 34.4	 28.5
CCI LOBO	 23.2	 35.9	 16.3	 23.1	 25.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(8月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年8月23日～26日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数71

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	21.4	▲58.6	▲42.8
見通し	▲30.9	▲28.5	▲7.1	▲51.7	▲14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIのマイナス幅ふたたび拡大

8月の全産業合計のDI値前年同月比ベース、以下同じ）は、38.0(前月水準 30.0)となり、マイナス幅が8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業 21.4(同 18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業 42.8(同 30.0)。

7、建設業 50.0(同 42.8)、卸小売業 58.6(同 51.8)である。

【建設業】からは、「新分野への転換を模索しようとしているが、それまで各企業は持ち堪えられるのでしょうか」「(土木工事業)」「工事単価が下げられてきている(管工事業)」などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「電気部品」の納期遅れの影響が回復しつつある。一時的な短納期受注は出てくるが継続的な仕事に結び量はない(その他の機械・同部分品製造業)」という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「当月については売上高が久しぶりに前年同月を上回る事となった。入店客数についても前年確保には到らないものの増加傾向が続いている。好調の要因として、猛暑による日傘帽子他の雑貨の伸長が目立った(百貨店)」「売上高増加に向けて集客力の高いショッピングの誘致を進めている。今後は雑貨を中心としたショップがオープン予定(百貨店)」「7月度は学期末の売上増により増益でしたが、8月は猛暑の為に昼間の客足が例年より少なく、小物の販売が期待

できない。子ども手当の支給効果は期待できない(その他の飲食料品小売業)売上高や猛暑の影響に関してなど、多岐にわたる内容のコメントが上がってきた

8月の景気キーワード

猛暑の影響

各業種から、「猛暑の影響で仕事の効率下がった。先行き3カ月の業況は目安はまったかつかめない(電気工事業)」「例年にない暑さで売れるものが全く違う。昨年のデータが意味をなさないので、自分たちで暑いときでも食べたくなくなるような提案をしていかなければならない(各種食料品小売業)」「連日の猛暑の影響により青果物不足により高騰している状況。打撃をつけています。一部野菜に入荷減単価高の動きがあるが総体的に取扱高が減少(食料・飲料卸売業)」「厳しい暑さが続き価格の安い軽衣料、夏物雑貨が売れたが、店頭の商品に動きが無く暑い夏の反動が怖い(その他の各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

売上減少

各業種から、「9月になると暖房機の商戦が始まりますが、この暑さが続くと苦戦が予想され、売上減少になりそうです。他の対策を考え中です(管工事業)」「猛暑で売上減少(菓子・パン小売業)」「企業宴会(会議セミナー)の減少、宿泊の稼働は上がるが一室単位は減少し若干の売上減少となる(ホテル)など、さまざまな声が上がってきた。

エコカー補助金・減税

卸小売、サービス業から、「エコカー補助金が9月まで出るとの期待が増えています(自動車小売業)」「エコカー減税の駆け込み需要の影響等でキー局のスポットが活況に。ローカルへの好影響が一応期待されるが、よい目を見るのはキー局のみというのがこれまでの例でもある(民間放送業)など、エコカー補助金や減税に関するコメントがあった。

CCI L O B O Oの比較

全産業合計では、「柏の景気」が38.0に対し「CCI L O B O O」が3

7.7で、柏の方がマイナス幅が0.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：平成22年8月17日～23日

調査対象：全国の408商工会議所が2661業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIはわずかに改善も、先行きへの警戒感が強まる

8月の全産業合計の業況DIは37.7(前月比+2.0ポイント)と、マイナス幅が2カ月連続で縮小した。業況は、持ち直しの動きがみられるが、主要因は猛暑特需によるものであり、これを除くとほぼ横ばい。6月以降、改善の勢いが鈍化している。景気回復の自律性は依然として乏しく、競争激化に伴う低価格での受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。

先行きについては、37.2(前月比2.5ポイント)と、8カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。公共工事の減少、低価格での受注競争の激化、経済対策(エコカー補助金)の期限切れによる自動車販売の落ち込みの見通しに加え、製造業を中心に、急激な円高の悪影響を懸念する声が多く出ており、先行きへの警戒感が強まっている。

「公共・民間工事とも受注が低調で、景気回復の実感は程遠い」(土木事業)、「原材料であるコンクリートの仕入価格が高騰し、採算が悪化」(舗装工事業)

【製造業】「4月以降続いていた改善の勢いが止まり、現在の業況を維持できるか先行きに不安を感じる」(工業用プラスチック製品製造業)、「建設機械関係の受注は急速に回復しているが、取引先からコスト削減の要求が強い」(一般産業用機械・装置製造業)、「エコカー補助金の終了に伴う自動車生産・販売の落ち込みや円高の進行による輸出の減少を懸念」(その他の金属加工機械製造業)

【卸売業】「花の仕入価格の上昇に対し、小売店での販売価格への転嫁は難しく、採算が悪化」(農畜産・水産物卸売業)、「建築資材の荷動きが悪く、売上の減少が続いている」(建築材料卸売業)、「高速道路料金無料化が運送時間の短縮や経費節減に寄与」(各種商品卸売業)

【小売業】「7月に好転の兆しが見られた美術・宝飾・貴金属関係の売上が、8月に入って前年同月比10%程度のマイナスに転じた」(百貨店)、「猛暑によるエアコンの買い替え需要が旺盛であったことから、梅雨明けからお盆過ぎまで好況が続いた」(その他の小売業)

「消費者の低価格志向が強まっており、利幅の少ない安い商品はかりに売上が偏っている」(その他の小売業)

【サービス業】「猛暑の影響で例年より客足が鈍り、売上が減少」(その他の一般飲食店)、「お盆をはさんだ夏休みの国内旅行者は減少しているものの、中国からの観光客が増加」(旅館)、「食材、包装容器等の仕入価格の上昇がひとまず収まっているものの、来店客数の減少に歯止めがかからず経営状況は厳しい」(喫茶店)

8月のキーワード

価格競争の激化

公共工事の削減に伴う採算を度外視した受注競争や、小売業などにおける消費者の低価格志向を意識した販売価格の大幅な値下げなど、価格競争の激化による収益の減少を訴える声が多い。

「公共工事・民間工事とも減少しており、低価格での受注競争が激化」(横浜・一般土木建築工事業)、「自動車関連では受注の回復基調が続いているものの、海外企業との目積みもに於ける低価格競争が激化しており、経営状況は依然として厳しい」(高崎・自動車・同附属品製造業)、「スーパー間で小売価格の値引き競争が続いており、

食品を中心に卸売価格が抑制され、収益状況が厳しい」(静岡・各種商品卸売業)

【経済対策の期限切れに対する懸念】

エコカー補助金が9月末で期限切れを迎えることから、経済対策の効果によって下支えされていた自動車販売の落ち込みを懸念する声が多く寄せられた。

「自動車部品の受注はハイブリッド車関係で引き続き堅調であるが、エコカー補助金終了後の大幅な受注減を懸念している」(静岡・金属加工機械製造業)、「エコカー補助金の終了によって仕事がなくなる」とへの不安を感じる」(西尾・鉄素形型製造業)、「10月以降の売上見直しへの不安が強く、業界全体で駆け込み需要の取り込みに躍起になっている」(横浜・自動車卸売業)

【急激な円高の悪影響】

製造業を中心に、急激な円高によって輸出や生産が減少し、収益に悪影響が及んでいる。「急激な円高により、輸出向けの受注が大幅に減少し、生産調整を進めざるを得ない状況」(草津・自動車・同附属品製造業)、「中国向けの部品・装置等を多く製造しているため、このまま円高が進むと、業況の悪化につながる恐れがある」(亀

田・金属加工機械製造業)、「円高の影響により、欧米向けティーパーツの注文キャンセルが発生しており、工芸鑄物の受注法が落ち込んでいる」(奥州・鉄素形材製造業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
8月	▲37.7	▲56.1	▲20.0	▲35.4	▲43.9	▲38.8
見通し	▲37.2	▲52.1	▲31.9	▲24.8	▲36.1	▲39.3

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI